

平成20年度病虫害発生予察特殊報第3号

平成20年9月1日

発表：福島県病虫害防除所

病虫害名 アワダチソウゲンバイ【*Corythucha marmorata* (Uhler)】

寄主植物名（作物名） ヒマワリ

1 発生状況

平成20年7月に中通り地方南部のほ場から、ゲンバイムシ類が寄生しているヒマワリが県中農林事務所職員により持ち込まれた。その後、8月1日に現地を調査したところ、ヒマワリの葉裏に寄生する成虫及び幼虫を確認した。さらに、発生ほ場付近の雑草を調査したところ、セイタカアワダチソウ、ヒメムカシヨモギ、ヨモギ、ヒメジョオンにも寄生を確認した。

現地で採集した成虫を農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼したところ、アワダチソウゲンバイであることが判明した。

本種は北アメリカ原産の侵入害虫で、国内では平成12年に兵庫県で初確認され、平成17年頃から急激に全国に分布が拡大している。平成19年には隣県の群馬県、新潟県で本種発生の特殊報が発表されている。

2 形態

成虫の体長は約3mm、前翅の周縁部に顕著な刺を列生し、前翅には多数の不定形褐色斑がある。幼虫は全身が褐色の紡錘形で葉裏に集まり吸汁加害する。被害葉の表面はカスリ状に白変し、排泄物により茎葉に汚れが発生する。加害が進行すると葉が黄化、枯死する。

3 生態

キク、ヒマワリ、アスターなど主にキク科植物を加害するほか、サツマイモ（ヒルガオ科）、エボルブス（ヒルガオ科）、ナス（ナス科）でも寄生が確認されている。大阪府の調査によれば、本種はキク科雑草で成虫越冬し、露地キクでは6～8月に発生し、成虫発生の盛期は7月下旬と8月下旬とされている。

4 防除対策

ヒマワリでは本種に対する登録薬剤はない。ほ場周囲のキク科雑草（特にセイタカアワダチソウ）は、本種の重要な発生源となるため、除草を徹底する。

キクでは、本種に対しクロルフェナピル水和剤（発生初期、2回、2,000倍）の登録があり、発生量に応じてこれを散布する。

なお、本種の発生が疑われる場合は農業総合センター安全農業推進部（病虫害防除所）または生産環境部作物保護科へ問い合わせること。



図1 アワダチソウグンバイ成虫



図2 ヒマワリの被害葉



図3 寄生状況 (ヒメムカシヨモギ)